

# ふるさとへぐり再発見

9

## 柿塚古墳



旧平群南保育所のすぐ南側、くろもと橋から<sup>ふしはら</sup>樫原へ登る坂道の途中、左側のブドウ畑の中にこんもりとした塚が見えます。

これが柿塚古墳で、直径約30mあり、平群谷ではもっとも大きい円墳です。

西より延びる丘陵の東端付近に位置し、同じ丘陵上にも数基の古墳が築かれています。

墳丘の南側斜面に石室の入口が開口しており、そこからにじり込むと死者の世界へと入っていくことができます。

<sup>せんだう</sup>羨道部分が多量の土砂で埋まっており、<sup>げんしつ</sup>玄室が非常に大きく感じられます。

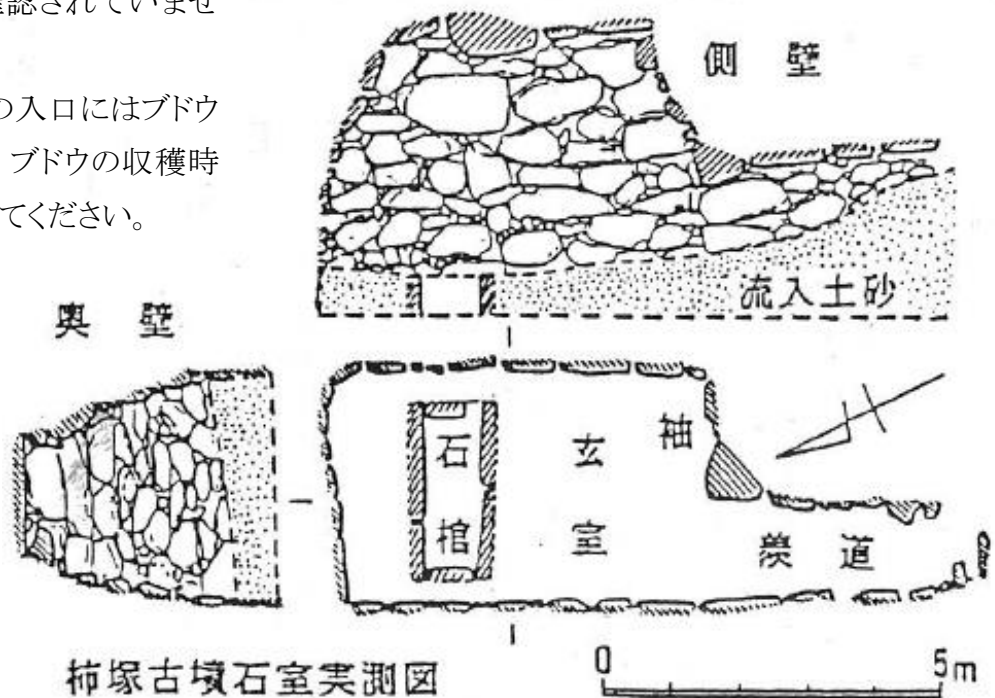
石室は玄室長5.2m、高さは3.8mもあり、羨道は長さ3.8m、幅1.3mの片袖式の横穴式石室で、袖幅は1.9mもあります。壁は強い持ち送りで積まれ、玄室下では長方形ですが、天井に近づくにつれて角が取れ、楕円形となり天井は四枚の板石で塞がれています。石材も上の段ほど大きな石が用いられています。

玄室の奥壁に沿って主軸と直角の東西方向に板石による組合せ石棺が据えられています。石棺は内寸で長さ2.1m、幅は西側で0.9m、東側は0.7mあり、西枕で埋葬されたと見られます。石室の前には広いスペースがあり、ここにも追葬されている可能性が考えられます。

この古墳からの出土遺物は知られていませんが、石室の形態より6世紀初頭頃の築造と考えられます。

埴輪の使用は確認されていません。

なお、柿塚古墳の入口にはブドウ畑がありますので、ブドウの収穫時期には見学を控えてください。



柿塚古墳石室実測図